

平成24年度 全国養護教諭研究大会

平成24年8月9日・10日 山形県山形市

主 題

生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割

～心身の健康問題解決に向けた情報共有と連携の進め方～

記念講演
演題 生きる力の中心にあるもの
～つながりの中で育む「いのち」
輝く子ども～

宮城子ども総合センター

所長 本間 博彰

1 心的外傷と生きる力

震災により多くの子どもが心的外傷を被った。心のケアとは生きる力に焦点を当て、その力を高めることである。

2 生きる力を高める支援

① 災害前の段階

災害教育や災害時の対処法について自分を守る知識を身につける。

② 災害急性期の段階

安心安全の確保。親や教師とのつながりを密にし、通常の学校生活を送れる。

③ 災害急性期後期の段階

子どもの行動や対人関係の観察、運動、描画の場の提供、楽しい遊びにより心的外傷を解消させる。

④ 災害後期の段階

学校は子どもの心のケアや、より高い健康力を獲得する場とする。

シンポジウム

演題 「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割」
～心身の健康問題解決に向けた情報共有と連携の進め方～

＊増玉豊三郷市立前川中学校 校長 高橋 宏至

＊岩手県立天徳高等学校 副校長 佐藤 一也

＊山形県立形西高等学校 養護教諭 土屋 孝子

＊岩手の被災地の学校では、心身の健康問題に対して、予防的対応と早期発見・早期対応が大切であり、組織的な取り組みの充実や実効ある連携の実現のため、学校サポート体制の取り組みが行われている。

＊群馬県高崎市学校保健会 理事 植原 政弘

＊東京女子体育大学 教授 戸田 芳雄

子どもの心身の健康を守り、安心・安全を確保するために、学校が行政機関や学校医・学校歯科医等と組織的に連携する必要がある。

(一関市立中里小学校 高橋妙子)

第45回 東北学校保健大会

平成24年8月9日・10日 青森県八戸市

分科会報告

「第3分科会性に関する指導」
研究協議

生命を尊重し、生涯を通じて健やかな生活を営むための資質や能力を高く、性に関する指導の進め方研究発表

「性教育における小中連携」

弘前市性教育調査研究委員会の取組と本地区での実践

弘前市立東自屋中学校 教諭 工藤 兼

「小中連携の実践例」

① 情報交換のみならず両校教師が互いに出前授業や、児童生徒が一緒の作業や行事を行っている。地域の協力を得ながら小中一貫教育を目指し、9カ年の性教育の年間計画を策定し指導にあたっている。

② 「被災地支援」という視点で特別プロジェクトを結成。小5～中3まで講習や講義、実習、生産活動に取り組み、連携を図っている。

③ 公的発行物を活用し、希薄化している家庭での性の会話のきっかけ作り、教師と家庭の距離が縮まるように心がけている。

④ 「既習の性教育の再認識化」を図るために、当たり前のこととして男女の違いを知り、男女の協力を図り道徳・学活等で取り上げている。

〈課題と展望〉

① 小中連携の組織化を図る

② 小中連携の必要性を実感し、交流場面を多くとる必要がある、9カ年の一貫指導の共有化を図っていく。

③ 性に対する教員の資質を高める

④ 職員間での情報共有ができる雰囲気づくりが必要。子ども達には常に細心の注意を払い興味本位の発言やセクシュアルハラスメントに気をつけたい。

〈終わりに〉

未来を担う子ども達の「いのちに関わる」問題であり、授業だけでなく、学校・地域と社会全体の問題として考え続けていきたい。

「自ら生きる、共に生きる」 いのちの学習の実践

自然体で取り組める性に関する指導を求め続けて

山形市立蔵王第二中学校 教頭 井上 賢一

教諭 斉藤 知幸

〈取り組みの指導の実践〉

① 各学年の年間3時間の指導や、各教科や道徳の時間で性に関する深い内容もあり、関連を明確にして指導している。

② 校内研究は性に関する指導を取り上げ、年間指導計画や教科領域の関連図を作成。性に関する指導(いのちの学習)の内容の系統を整理し、各担任が主体的に授業づくりを行い、推進体制が強化された。

③ 保護者参加型の研修会を行い、共通理解を図り、要望を積極的に取り入れた。

④ 子ども達の実態や個人差を配慮して資料と授業内容の共有化を図り、学習を丁寧に進めている。

〈課題〉

① 様々な情報ツールを介した情報の氾濫がある。早急に他の教科・領域の学習と関連させながら指導計画を見直す必要がある。

② よりよい関係づくりのために正面から取り組んでいく。

〈終わりに〉

性の事だけではなく、児童生徒が自己判断に基づいて行動する力を付ける事が大前提としている。

(北上市立東陵中学校 戸草内みつる)